

ソフトウェア・ICT 産業における知的財産を活用した事業戦略 シラバス

1. 講師

加藤 浩一郎（金沢工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科 教授）

2. 研修テーマの狙い

ソフトウェア・ICT 産業における事業戦略の確立・推進、ビジネスモデルの構築のための知的財産の戦略的なマネジメントについて学びます。知的財産のうちでも、特に本研修では主な対象として特許をとりあげて、その戦略な活用を中心的なテーマとします。あわせて、近年重視されている標準化への対応や、著作権を効果的に活用したオープンソースソフトウェア（OSS）に関しても学びます。

具体的には、下記のテーマについて取り扱います。

- ・ソフトウェア・ICT を活用したビジネスにおける知的財産の役割
- ・ソフトウェア（およびハードウェア）が関連するオープン&クローズ戦略のバランスと標準化
- ・事業戦略における OSS の活用と留意点
- ・オープンイノベーション環境下での知的財産を活用した戦略的活動
- ・ソフトウェア・ICT 関連の中小企業における知的財産の活用

3. 到達目標

ソフトウェア・ICT 産業の事業部門や中小企業の事業戦略・ビジネスモデルの立案、知的財産と標準化を取り入れた分析、意思決定をすることができるようになります。

ソフトウェアや ICT に特有の知的財産マネジメントの対応・注意点を理解し、実践することができるようになります。

ソフトウェア（とハードウェアを組み合わせた場合も含めて）について、オープン&クローズ戦略や標準化における知的財産マネジメントの対応・注意点を理解し、実践することができるようになります。

4. 受講対象者

ソフトウェア・ICT 産業（※）の事業部門の事業部門長をはじめとする管理職や新規事業のリーダー等（ソフトウェア・ICT 産業の中小企業経営者も含む）

※本事業の「ソフトウェア・ICT 産業」とは、ソフトウェアや ICT を活用した産業全般を指します。

5. 教材一覧

No.	類型	狙い・ポイント	企業名	教材の概要・特徴
2-1	長編教材 (1)	ソフトウェア・ICT ビジネスにおいて知的財産を戦略的に活用する	アドビシステムズ	事例：Acrobat ソフトウェアのオープン&クローズ、標準化
2-2	長編教材 (2)	オープン&クローズ戦略	デンソーウェーブ	事例：QR コード ソフトウェア+ハードウェアとオープン&クローズ、標準化
2-3	長編教材 (3)	競争差別化のためのオープン&クローズと標準化戦略	キヤノン	事例：デジカメ 標準化、オープン&クローズ
2-4	短編教材	訴訟で活用できる特許、知財ミックス	アップル	事例：アップル vs サムスン訴訟 訴訟で使えるソフトウェア・ICT 関連の知的財産権
2-5	短編教材	中小ソフトウェア特許のリスク管理	セールスフォース・ドットコム	事例：権利行使対応 ソフトウェア特許の権利行使、対応策
2-6	短編教材	パテントプールのスキームと運営の実態、標準化	MPEGLA	事例：MPEG2 標準化、パテントプール、(オープン&クローズ)
2-7	短編教材	OSS における知財リスク管理	OIN(Open Invention Network)	OIN の活動、OIN のスキーム
2-8	短編教材	日本企業のビジネスモデルにおける OSS 活用	日本電気	事例：NEC の OSS 関連ビジネス、コピーレフト、開発、組み込み、
2-9	短編教材	特許を活用したコラボレーション	マイクロソフト	事例：マイクロソフトの知財戦略 コラボレーション (エコシステム)、オープン化の取り組み
2-10	短編教材	オープンソース開発とエコシステム構築、知財ポートフォリオ構築戦略	グーグル(Android)	事例：アンドロイド アライアンス戦略、OSS 開発、特許ポートフォリオ構築
2-11	短編教材	中小ソフトウェア企業	イーパーセル	事例：電子宅配便『e・パーセル』 特許活用戦略
2-12	短編教材	中小ソフトウェア企業	市川ソフトラボラトリー	事例：SILKYPIX 特許取得および契約戦略
2-13	短編教材	著作権によるソフトウェア保護	サイボウズ	事例：サイボウズ対ネオジャパン事件 ソフトウェアの著作権法による保護とその限界
	自己学習 用 教 材 (電子 コ ン テ ン ツ)	ソフトウェアと知的財産に関する基本事項等	サイボウズ	本研修受講に必要な基本的事項、用語等の確認 ・ソフトウェアやプログラムの知的財産 ・特許権と著作権の違い ・グローバル知財マネジメントの意味

6. 参考文献

研修講師による著書は下記の2冊です。

- ・ 加藤浩一郎『ソフトウェア知的財産－法律から実務まで－』（発明協会、2006 年）
- ・ マーシャル・フェルプス他著（加藤浩一郎監訳）『マイクロソフトを変革した知財戦略』（発

明協会、2010 年)
 その他については、各教材に記載しています。

7. 研修の進行例

以下の進行例は、2 日間の研修を開催する場合のコマ毎のテーマ、利用するケース教材、授業形式、事前課題・事後課題等を例示したものです。

(1) 1 日目 (13 : 30～17 : 00 (180 分、2 コマ分))

①事前課題

- ・自己学習用教材 (e ラーニング)「ソフトウェア・ICT 産業における知的財産を活用した事業戦略」を視聴し、ソフトウェア・ICT ビジネスにおける知的財産の位置づけについて自分の考えをレポートにまとめてください。レポートの提出は不要です。
- ・1 日目の授業で取りあげる下記の利用教材を読んできて下さい。疑問点があればメモしておいて下さい (提出は不要です)。なお、利用教材については読んできていることを前提として研修を行います。

②当日進行

No.	テーマ	利用教材	実施形式	所要時間	講師
1	ソフトウェア・ICT の事業戦略における知的財産戦略の基礎 ・知的財産戦略とは ・ビジネス方法関連特許 ・知的財産のリスク管理	No. 4 短編教材「なぜ知的財産訴訟を続けるのか」 No. 5 短編教材「持たざる者の知的財産リスク対応策」	講義 ディスカッション	90 分	加藤
2	中小企業の事業戦略における知的財産の活用 ・中小企業の特徴 ・訴訟戦略 ・契約マネジメント	No. 13 短編教材「サイボウズ vs ネオジャパン」 No. 12 短編教材「中小ソフトウェア企業の知的財産戦略 (1)」 ※No. 11 短編教材「中小ソフトウェア企業の知的財産	講義 ディスカッション	90 分	加藤 (ゲスト)

No.	テーマ	利用教材	実施形式	所要時間	講師
		戦略（２）」 （※当日配布）			
				合計 180 分	

③事後課題

No.9 短編教材「背水の陣の戦略変更～マイクロソフトの転機～」(後日配布予定)を読み、以下の設問について自分の考えをまとめてください。レポートの提出は不要です。受講者同士での勉強会を自主的に開催し、グループでディスカッションをすることをおすすめします。

- なぜマイクロソフトは知財戦略を変更することとしたのでしょうか
- オープンライセンスによりマイクロソフトには（従来にない）どのようなメリットがあるのでしょうか

（２）２日目（11：00～17：00（270分、3コマ分））

①事前課題

- ・2日目の授業で取りあげる下記の利用教材（後日配布予定）を読んできて下さい。疑問点があればメモしておいて下さい（提出は不要です）。なお、利用教材については読んできていることを前提として研修を行います。

②当日進行

No.	テーマ	利用教材	実施形式	所要時間	講師
1	事業戦略における OSS の活用 ・OSS のスキームと知的財産 ・OSS 活用の際の注意点	No.8 短 編 教 材 「OSS を活用した ビジネスとそのリ スク管理 No.7 短 編 教 材 「Linux 普及のた めの取り組み」	講義 ディスカッション	90 分	加藤
	オープンイノベーション環境下での 戦略的活動 ・コラボレーション ・知財ポートフォリオ構築	No.10 短 編 教 材 「Android のエコ システム」 No.9 短編教材「背 水の陣の戦略変 更」			
2	ソフトウェア・ICT の事業戦略やビ	No.3 長編教材「デ	講義	90 分	加藤

No.	テーマ	利用教材	実施形式	所要時間	講師
	ジネスモデルへの知的財産の活用 (1) ・オープン&クローズ戦略と標準化の事例 ・パテントプール ・ソフトウェアにおける知的財産を活用したビジネスモデルの構築 ・オープン&クローズ戦略と標準化における知的財産の役割	ジタルカメラ」 No.1 長編教材「アドビシステムズ・Acrobat」 No.6 短編教材「成功から学ぶパテントプール」	ディスカッション		
3	ソフトウェア・ICT の事業戦略やビジネスモデルへの知的財産の活用 (2) ・ソフトウェアとハードウェアにおける知的財産を活用したビジネスモデルの構築 ・オープン&クローズ戦略と標準化における知的財産の役割	No.2 長編教材「デンソーウェーブ・QR コード」	講義 ディスカッション	90 分	加藤 (ゲスト)
				合計 270 分	

③事後課題

事後アンケートに、本研修を通じて得た「学び・気づき」、「企業実務に活かしたい点」等をまとめ、提出してください。

以上